

第 10 章

NWEC の情報事業から 他機関との連携事業について

山崎 裕子

1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）情報課では、女性教育情報センター（以下、情報センター）ならびに女性アーカイブセンター（以下、アーカイブセンター）において、資料の収集・整理・保存・公開を核とした業務を行っている。そうした機関は一般的に直接来館での利用をイメージしやすいが、それ以外にも様々な活用法や利用形態があり、NWEC でも資料の利用者に合わせて多方面のサービスを展開している。

本稿では、他機関との連携という視点からそれぞれのサービスを取り上げ、2016 年度の動向を中心に情報課の活動について述べる。

2 パッケージ貸出

情報センターでは、大学・高等専門学校・女性関連施設・公共図書館等を対象に、様々なテーマに合わせて図書を 100 冊単位（高等専門学校は 50 冊）でリストアップし、一括して貸し出すサービスを 2010 年度から実施している。テーマは「男女共同参画」「ジェンダー」「キャリア」「理科系」など、男女

Ⅲ NWEC 実践報告

共同参画や女性の社会参加に関わるものを複数組み合わせ設定している。

サービスは、NWECで内容を決めたパッケージを3か月ごとに入れ替えつつ1年間継続して貸し出す「年間パッケージ」と、機関の要望に応じた内容・冊数・期間で貸し出す「個別パッケージ」に大別できる。パッケージ貸出図書をどのように運用するかは貸出先の機関に任せているが、館内での閲覧利用のみに留める機関と、館外貸出を行う機関とに分かれる。

表1 2016年度年間パッケージ貸出先一覧

テーマ案	4-6月	7-9月	10-12月	2017年1-3月
ジェンダー、医療・看護・生命倫理	秋田大学 (中央図書館)	秋田大学 (医学図書館)	上智大学	電気通信大学
理科系、人間関係	秋田大学(医学 図書館)	上智大学	電気通信大学	神奈川大学
国際協力・海外事情、家庭・家族	上智大学	電気通信大学	神奈川大学	鳥取大学 (中央図書館)
ジェンダー、教育	電気通信大学	神奈川大学	鳥取大学 (中央図書館)	鳥根大学
男女共同参画、セクシュアリティ、しごと	神奈川大学	鳥取大学 (中央図書館)	鳥根大学	名古屋工業大学
キャリア・しごと、性暴力、政治、社会、セクシュアリティ	鳥取大学 (中央図書館)	鳥根大学	名古屋工業大学	山口大学 (総合図書館)
キャリア・しごと、人間関係、男性論、人権	鳥根大学	名古屋工業大学	山口大学 (総合図書館)	東京大学 (駒場図書館)
災害、メディア、性暴力、こころ	名古屋工業大学	山口大学 (総合図書館)	東京大学 (駒場図書館)	お茶の水女子大学
男女共同参画、貧困・格差、しごと	山口大学 (総合図書館)	東京大学 (駒場図書館)	お茶の水女子大学	札幌市男女共同 参画センター
キャリア・しごと、こころ、歴史、社会	東京大学 (駒場図書館)	お茶の水女子大学	札幌市男女共同 参画センター	山形大学 (小白川図書館)
キャリア・しごと、人権、多文化・国際比較、セクシュアリティ	お茶の水女子大学	札幌市男女共同 参画センター	山形大学 (小白川図書館)	秋田大学 (中央図書館)
理科系、キャリア・しごと、いのち、社会、男女共同参画	札幌市男女共同 参画センター	山形大学 (小白川図書館)	秋田大学 (中央図書館)	秋田大学 (医学図書館)
男女共同参画、家庭・家族	山形大学 (小白川図書館)	秋田大学 (中央図書館)	秋田大学 (医学図書館)	上智大学
いのち、生き方、国際協力・持続可能な社会、男女共同参画		山形大学男女共 同参画推進室 米沢分室	山形大学男女共 同参画推進室 米沢分室	
理科系、からだ、いのち、男女共同参画				
男女共同参画(高専向けパッケージ1)	弓削商船高等 専門学校	弓削商船高等 専門学校	群馬工業高等 専門学校	群馬工業高等 専門学校
男女共同参画(高専向けパッケージ2)	奈良工業高等 専門学校	奈良工業高等 専門学校	米子工業高等 専門学校	米子工業高等 専門学校
男女共同参画(高専向けパッケージ3)	高知工業高等 専門学校	高知工業高等 専門学校	沖繩工業高等 専門学校	沖繩工業高等 専門学校
男女共同参画(高専向けパッケージ4)	有明工業高等 専門学校	有明工業高等 専門学校	松江工業高等 専門学校	松江工業高等 専門学校

表2 2016 年度個別パッケージ貸出先一覧

テーマ	貸出先	貸出期間
新入生向けパッケージ	山形大学男女共同参画推進室米沢分室	4月-6月
アート、コミュニケーション、食、男女共同参画	秋田県中央男女共同参画センター	5月-7月
「自伝で出会う・世界の女性 50 人」	千葉市男女共同参画センター	9月-1月
生き方、人権、児童福祉、男女共同参画等	秋田県中央男女共同参画センター	10月-12月
学校、人間関係、児童福祉、生活	上越教育大学附属図書館	10月-12月
男女共同参画とキャリアデザイン	鹿児島大学	10月-12月
医師・看護師、社会、生き方、しごと、キャリア、理科系、人間関係（親子関係・恋愛など）、男女共同参画、ワークライフバランス、言語とジェンダー	滋賀医科大学	10月-12月
工学部学生向けパッケージ、日本の男女共同参画に関する外国語の図書（留学生向け）	東京大学工学情報理工学図書館	11月-1月
性・文化・ジェンダー、法とジェンダー、子どもとジェンダー等	宮城教育大学	11月-2月

貸出先の機関ではそれぞれ工夫を凝らして特設コーナーを作り、ブログ・Twitter・facebookなどで機関内外への告知を行って、図書の利用促進とともにNWECのPRを図っている。

以下、2016年度の活用事例を中心に紹介する。

事例 1・島根大学附属図書館

島根大学では2016年度から、男女共同参画推進室と附属図書館が連携してパッケージ貸出の利用を開始した。貸出対象の図書は、男女共同参画社会の理念を学生や教職員に浸透させることを目的として新たに開設された男女共同参画図書コーナーに置かれた。また、同コーナーの愛称は学内公募によって「いこうる」と命名された（命名者は、同大学教育学部の石野陽子准教授）。男女共同参画を表す“gender equality”の「イコール」を“憩いの場”の「いこう」につなげたネーミングで、このコーナーを利用し学習することで、誰もが自分らしい人生を歩み、他者を尊重しあう家庭や学校、地域社会を育んでいこうという思いが込められている¹⁾。同大学がパッケージ貸出に寄せる期待の大きさが窺われる。同大学では2017年度もパッケージ貸出の継続利用が決まっている。



愛称「いこうる」決定の表彰式（島根大学附属図書館）

事例 2・東京大学駒場図書館

NWEC がパッケージ貸出サービスを始めた 2010 年 6 月、教員の発案により、東大駒場図書館で男女共同参画関連図書を集めたコーナー「GENKI BOOKS」が開設された。GENKI は“Gender Equality : No-nonsense Knowledge and Information”の頭文字を取って命名されたものである。内容は、3 か月ごとに入れ替わる NWEC の年間パッケージ貸出図書、歴代パッケージ貸出図書の中で利用頻度が高かったものを東大駒場図書館が購入した図書、教員を中心に選書した図書等で構成されており、購入図書は 2016 年 11 月現在で 740 冊にのぼる。駒場でジェンダー論を開講している教員が選書に関わったりするなど、図書館職員だけでなく周辺関係者の理解と協力にも支えられて、2016 年現在も継続中である。



東京大学駒場図書館
「GENKI BOOKS」コーナー



事例 3・秋田県中央男女共同参画センター

秋田県中央男女共同参画センターでは 2015 年度から個別パッケージ貸出の利用を開始し、同時にイベント開催や複数メディアへの働きかけ等によってパッケージ貸出の宣伝を積極的に展開した。

メディアでは、秋田ケーブルテレビの情報番組「し～なチャン」の地域情報コーナーに同センター長が出演し、「自分と出会う～ブックフェア」と題してパッケージ貸出の利用について説明した（2015 年 6 月 30 日放送）。また、『秋田魁新報』が「男女共同参画をテーマにブックフェア」の見出しで取材記事を掲載し、NWEC のことも取り上げた（2015 年 6 月 13 日）。

イベントではブックフェア関連企画としてビブリオバトルを開催した。ビブリオバトルは国内各地の図書館等で近年盛んに開かれているもので、参加者が自らの推薦図書をギャラリーに対して一人数分ずつ紹介し、紹介を聞いて読みたくなった本をギャラリーが投票するという催しである。同センターのビブリオバトルではパッケージ貸出図書を推薦した参加者もいたとのことである。

同センターでは 2016 年度も個別パッケージを 2 回にわたって利用しており、こちらも今後の継続利用が期待される。



秋田県中央男女共同参画センターでのパッケージ貸出図書展開事例

NWEC では今後もパッケージ貸出サービスを継続する方針である。貸出先機関からは刊行年が新しい図書の提供を求められることが多いが、サービス開始から数年経って貸出図書の内容がやや古くなってきたため、近年はパッケージごとに内容の見直しを図っている。2016 年度からは、男女共同参画に関する基本図書数十冊を NWEC が独自に選定し、複数セット購入してパッケージに混ぜるなどの試みも行っている。今後の課題としては貸出対象機関の拡大や見直し等が挙げられる。

3 アーカイブセンター展示パネル貸出

アーカイブセンターは 2008 年に開設された。同年には専用の展示室もオープンし、アーカイブセンター所蔵資料を中心とした「所蔵展示」、複数の他機関からアーカイブ資料を借用する「企画展示」を約半年ずつ交互に行い、現在まで展示事業を継続させている。展示用に作成したパネルを展示パネルと呼んでいるが、2016 年 11 月現在、所蔵展示・企画展示用に作成したものが 9 セット 112 枚、バラで作成したものが 35 枚、計 147 枚あり、他機関からの要望に応じて随時貸出を行っている。NWEC のウェブサイトから展示パネル PDF を申込者にダウンロードしてもらう形でも提供をしており、パネルだけでなく展示で使用された関連資料も依頼に応じて貸出や提供を実施

している。

展示パネル貸出についてはNWECのウェブサイトの詳細を掲載してアピールしているが、トップページから辿りにくい場所にあるためか今までほとんど利用されたことがなく、ここ数年の実績としては、2014年度が1件、2015年度が0件であった。しかし2016年度に入ってから、理由は定かでないものの急に需要が増し、2016年11月上旬までに7団体8件分の貸出を行った。さらに年度内に少なくとも2団体2件への貸出を行う予定である。少ないサンプル数からあえて貸出の傾向を見て取るとすれば、2016年が男女雇用機会均等法施行から30年目に当たることから、2015年所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」のパネルに需要があったこと、また女性を対象とした高等教育に関する展示に関心が寄せられたことがわかる。

表3 2016年度展示パネル貸出先（受付順、2016年11月現在）

作成年度	パネル名	団体名	展示場所
2008年度 企画展示	女性の高等教育の黎明	千代田区男女共同参画センター M1W	男女共同参画週間特別企画講演会「近代日本のバイオニア 広岡浅子—女性の高等教育の夢」
2010年度 企画展示	女性の実業教育のはじまり		
2015年度 企画展示	宇宙をめざす	国立市市長室	国立市役所（男女共同参画週間企画展示）
2014年度 所蔵展示	喜美子さんの家計簿	生活協同組合ユニーコープ	「全国生計費調査の20年」報告・交流会
2015年度 所蔵展示	男女雇用機会均等法から30年	薩摩川内市企画政策部	平成28年度男女共同参画フォーラム in 薩摩川内
2015年度 所蔵展示	男女雇用機会均等法から30年	倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課	2016くらしき男女共同参画フォーラム、倉敷市役所
2009年度 企画展示	女性科学者の誕生	長岡工業高等専門学校	長岡工業高等専門学校学園祭
2009年度 企画展示	女性科学者の誕生	(株)リブネット	少年少女科学体験スペース オーラボ（大分県子ども科学体験推進事業）
2008年度 企画展示	女性の高等教育の黎明	西東京市男女平等推進センター バリテ	男女平等推進センター バリテまつり
2015年度 所蔵展示	男女雇用機会均等法から30年	佐賀県立男女共同参画センター アバンセ	主催事業会場、施設内展示スペース

貸出件数を今後も増やすためには、NWECウェブサイト上に展示パネルの案内ページをよりわかりやすく設置することが重要である。サイトは2016年12月20日にリニューアルされ、リニューアル後はトップページの

メニューから2ステップで展示パネルのページにアクセスできるようになった。また、男女共同参画センターもしくは男女共同参画イベントで活用されるケースが多いため、今後はNWEC側から、関連団体やイベントを事前に調査して利用を呼びかけていくことも有効と思われる。

本稿では展示パネル貸出の事例を2件紹介する。

事例1・倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課

倉敷市では毎年「くらしき男女共同参画フォーラム」を開催しており、2016年度は10月1日に開かれた。当日は吉川美代子氏の講演やワークショップ、映画上映会等が行われたが、その会場ロビーに「均等法から30年」のパネルが展示され、参加者約1,000人(推定)の目に触れた。終了後は倉敷市役所内に場所を移し、10月3日から11日まで展示された。

本事例については、リニューアル後のNWECウェブサイトで開催されたウェブマガジン「&NWEC」でより詳しい紹介を行っている。



「男女雇用機会均等法から30年」展示パネル例

事例2・生活協同組合ユーコープ

平成27年度所蔵展示「喜美子さんちの家計簿」では、横浜生協（現・ユーコープ）の元組合員である中村喜美子氏からアーカイブセンターが寄贈を受けた56年分の家計簿を基に、中村氏個人の消費活動や家計活動の変遷を通して、女性をめぐる社会の動きや市民生活の変化を紹介した。その際に作成した展示パネル12枚組をユーコープへ貸し出し、ユーコープは2016年6月30日、公益財団法人生活協同総合研究所主催公開研究会「全国生計費調査の20年～調査結果が示す家計と社会の変化～」においてパネル展示を行った。この研究会は、全国の生協組合員の協力により毎月の家計データを集計・分析して毎年実施している全国生計費調査の20周年を記念して開かれたもので、家計簿集計に長年携わり「生協の家計簿」(1971年刊行開始)の編纂にも深く関わった中村氏は、生計費調査に関わる組合員にとって大先輩にあたる。アーカイブセンターとしては適切な展示の機会を生協から得たと言えよう。当日はアーカイブセンターが所蔵する中村氏の家計簿のレプリカ4冊も併せて貸出を行い、多くの参加者が家計簿をめくって中村氏の肉筆に接する機会を作った。



生活協同総合研究所主催公開研究会「全国生計費調査の20年」でのパネル展示風景

4 ILL

ILL (Interlibrary Loan) は日本語で図書館間相互貸借といい、図書・雑誌・新聞等のコピー送付や図書の貸出を図書館間で相互に行うサービスである。情報センターでは、大学図書館・公共図書館・男女共同参画センター・女性関連施設の図書室等とネットワークを構築して ILL を実施している。

情報センターは男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館であり、日本全国に張り巡らされている ILL ネットワークの中では NWEC だけが所蔵しているという資料も多いため、NWEC を訪れる機会がない各地の外部利用者にとっては、資料を比較的手軽に取り寄せることのできる有益なサービスとなっている。

ILL ネットワークは対象機関によって種類が異なる。本稿では情報センターと連携しているネットワークを対象機関別に紹介する。

男女共同参画センター、女性センター等

男女共同参画センターや女性センター等の多くは図書室を備えており、その地域の一般市民を主な対象として所蔵資料の貸出・複写等のサービスを行っている。NWEC の女性関連施設データベース (<http://winet.nwec.jp/sisetu/>) で情報事業を行っている施設を検索すると 2016 年 11 月現在で 371 館が存在する。情報センターではそうした図書室等との間で ILL を実施しており、メールや FAX 等で随時対応している。

大学、研究所、都道府県立等の図書館

国立情報学研究所では、全国の大学図書館等から構成された NACSIS-ILL という名称の ILL ネットワークを構築している。対象館には独立行政法人も含まれるため、情報センターも参加館となっている。申込のやりとりは国立情報学研究所が提供する電子化システムを使ってスピーディに処理されるため全国で多くの利用があり、参加館は約 1,100 機関 (2016 年 9 月)、処理レ

コード件数は約628,000件(2015年度)を数える。情報センターがNACSIS-ILL経由で行った2015年度の図書貸出冊数は121冊だった。

埼玉県内の図書館

県内の公共・大学・学校・図書館類縁機関の図書館、計239館(2016年度)で「埼玉県立図書館／図書館協力ネットワーク」を構築している。資料の複製依頼は主にFAXで、図書の貸借は「連絡車」「協力車」が各図書館を巡回して行っている。情報センターの資料も、週1回やって来る協力車を通じて県内各地の図書館に貸し出されている。情報センターがこのネットワーク経由で行った2015年度の図書貸出冊数は93冊だった。

ILLにおける今後の課題としては、男女共同参画センターや女性センター等に対してさらにILLサービスの宣伝を行うことが挙げられる。全国の関連施設が371館もありながら、実際に情報センターに寄せられるILL依頼件数は例年ほとんどない。パッケージ貸出による利用は多く評価も高いので、1冊単位の貸出にも対応可能であることを同時に広く告知し、小さな需要も拾っていく姿勢が必要であろう。

5 埼玉大学・埼玉短協との連携

埼玉大学とは2010年度に男女共同参画の推進に寄与することを目的とした連携協定を締結している。その締結当初から、埼玉大学とNWECが連携して男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラムに基づく授業を行っている。

また、埼玉県私立短期大学協会(以下、埼玉短協)とも同じく2010年度から連携をしており、「短期大学生のためのキャリア形成講座」を継続して実施している。

NWECではこうした連携に対して各課室の職員が対応するチーム制を

採っており、情報課でも課長と専門職員が例年講義を行っている。

埼玉大学の場合、2016年度第3学期に「男女共同参画社会を考える・大学と出会う」という授業が行われ、そのうちNWECは以下の講義を担当した。

第4回：10/11 講義：男女共同参画とは（中野洋恵研究国際室長、埼玉大学にて実施）

第5回：10/15 NWECの統計情報の利用について、および資料調査（細川芽情報課長、情報センターにて実施）

情報課長による講義では、NWECの所蔵資料を検索する「文献情報データベース」(http://winet.nwec.jp/bunken/opac_search/)を紹介し、例えば「デートDV」というキーワードで検索すると865件ヒットするが、埼玉大学図書館のOPAC（オンライン所蔵目録）でタイトル検索を行うとヒットが1件のみ（数値は2016年10月15日現在）という実例をもって、「文献情報データベース」が専門的なテーマを検索する際には非常に有効であることを示した。また、省庁等が作成した統計資料から日本の女性及び男性の状況を把握する上で重要な統計を取り出してNWECが編集した「女性と男性に関する統計データベース」(<http://winet.nwec.jp/toukei/>)を紹介し、特に女性と男性を対比することを重視した形での提供を目指していることを述べた。

その後、学生に対して「男女共同参画に関連する事柄を1つ選び、それに関する資料を女性教育情報センターで探してみましよう（できれば図書、雑誌、新聞記事1件ずつ）」という課題を出し、情報センターで検索の実習を行った。

埼玉短協での2016年度キャリア形成講座では理事長・事業課・情報課による講義やグループワークが実施された。情報課からは五十嵐裕一専門職員が「情報収集の手段を学ぶ」と題して情報センターとアーカイブセンターに関する情報提供を行い、関森あすか係員が講義・グループワーク「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」にスタッフとして参加した。

アンケートは他の講義等と一括して実施されたため、情報課提供の講義に

対する個別の感想は不明だが、男女共同参画の理念や関連用語への理解が受講前より全般的に深まった結果が出ており、NWEC全体としては埼短協との連携授業が学生にとって有効だったと言える。

6 情報提供

NPO法人全国女性会館協議会では、2015年度から「男女共同参画センターにおける情報事業の現状と課題を把握し、時代と地域のニーズにあった情報事業を再構築する力をつける」²⁾ことを目的とし、全国の女性関連施設を対象に、男女共同参画センター等の情報事業担当者や行政の男女共同参画担当者等に対して「情報事業担当者のための課題解決・実践研修」を実施している。

NWEC情報課では同協議会からの依頼に応じて職員を派遣し、NWECの活用方法について情報提供を行っている。2015年度は静岡市女性会館(山崎)・とよなか男女共同参画推進センター(森未知・元情報課専門職員)にて、2016年度は小牧市まなび創造館(山崎)・札幌市男女共同参画センター(細川)に

全国女性会館協議会・小牧市まなび創造館 共催

2016年度 全国女性会館協議会

**男女共同参画センターの
情報事業を再構築する**

「男女共同参画センターの情報事業って何?」
「私たちが勉強・実践すべき情報とは?」
「離れた予算、スタッフで効果的に事業を進めるには?」

男女共同参画センターにおける情報事業の現状と課題を把握し、
時代と地域のニーズにあった情報事業を再構築する力をつけるための講座です。
それぞれのセンターで実施している情報事業を確りし、今後の展開の方策を
見出す実践的な研修です。

日時: 11月24日(木) 13:00~17:00
25日(金) 10:00~15:00

会場: 小牧市まなび創造館 研修室

対象: 男女共同参画センター等の情報事業担当者、
行政の男女共同参画担当者、図書館員、
男女共同参画センターの情報事業に関心のある人など

定員: 30名(定員になり次第、〆切)

参加費: 無料

持ち物: 昨年(2015年度)の自製の情報報告書

申込み: FAXまたはE-mailで小牧市まなび創造館へ

申込み・問合せ
〒443-0041
愛知県小牧市小牧三丁目555番地
電話: (0563) 719848
FAX: (0563) 719840
E-mail: manabi@city.komaki.lg.jp
休館日: 毎月第3土曜日(11月の第3日は休館)

小牧市まなび創造館での講座チラシ

Ⅲ NWEC 実践報告

てそれぞれ講義を担当し、情報課が女性関連施設等に対して行っている様々なサービスを、本稿に挙げたような事例とともに紹介した。

筆者も一部の講義を担当したが、以前から全国の女性関連施設とNWECが様々な形で連携を行っていても、NWECが幅広く行っている情報事業の一部しか把握していない女性関連施設職員が多いこと、そしてNWECの広報が不足していることを現地で実感した。各地の女性関連施設が予算も人員も削減される中で情報事業を継続していくにあたり、女性教育のナショナルセンターであるNWECの資源を活用することは有効な手段の一つであると思われる。NWEC情報課の事業を各地の施設職員に直接伝える機会を持つことによる事業連携の拡大を望んでいる。

注

- 1) 鳥根大学附属図書館のブログ「男女共同参画図書コーナーの愛称「いこうる」に決定！表彰式を開催（2016-06-10）」（閲覧日：2016年9月20日）<http://shimadai-lib.hatenablog.jp/entry/2016/06/10/122412>
- 2) 全国女性会館協議会（2016）「男女共同参画センターの情報事業を再構築する」（閲覧日：2016年9月20日）<http://j-kaikan.jp/top/modules/news1/index.php?page=article&storyid=117>

（やまざき・ひろこ 国立女性教育会館情報課情報係長（併）専門職員）